

## 第5章 実践の分析

### 1節 プロジェクト・キャンプの分析

#### 1 アンケート結果による分析

プロジェクト・キャンプ実施後、生徒たちにアンケート調査を実施した。キャンプに参加したのは14名であるが、その後長期欠席者がいたため回答者数は12名である。以下、いくつかの特徴がみられる点について指摘したい。

事前学習について。以下の学習は「協働」「自律」「活用*」などの力を伸ばすためどれぐらい寄与したか * 問題発見、予想・仮説、探究、問題解決のために様々なツールを活用することとする。				
(1)テーマ設定(プロジェクトのテーマ設定、自分/社会への意義、ゴールの設定)				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	3	9		
自律	4	8		
活用	5	7		
(2)事前調査(プロジェクトのレイアウト・計画、インターネットや文献での調査、インタビュー準備)				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	5	7		
自律	4	8		
活用	6	6		
(3)キャンプの行動計画の策定(アポとり、訪問先の決定、移動手段の決定、スケジュールの決定)				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	6	6		
自律	4	8		
活用	5	7		
(4)構想発表会・中間報告会				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	6	5	1	
自律	3	9		
活用	5	6	1	

事前学習では全ての活動が協働・自律・活用に寄与したと評価されている。特に事前調査における「活用」、行動計画における「協働」、構想発表会における「協働」・「活用」の評価が高い。「事前準備で特に充実していたと思うことや、意味があると感じたこと」を尋ねる自由記述では、自分たちでアポイントメントをとったこと(5名)、自分たちで行動計画を立てたことが充実していた(4名)との言及が多く見られた。

実施について。以下の活動は、「協働」「自律」「活用」などの力を伸ばすためどれぐらい寄与したか				
(1)訪問・見学				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	7	5		
自律	7	4	1	
活用	5	7		
(2)インタビュー				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	7	4	1	
自律	6	6		
活用	6	6		
(3)クラスミーティング				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	5	7		
自律	4	8		
活用	4	8		

キャンプ実施でも全ての活動が協働・自律・活用に寄与したと評価されている。特に訪問・見学における「協働」・「自律」、インタビューにおける全項目の評価が高い。「特に充実していたと思うことや学んだこと、意味があると感じたこと」を聞く自由記述では、

- ・土地勘のないところでインタビュー先へ自分たちだけで行くというのはなかなか大変でしたが、とても大切な経験だったと思いました。とりあえず、「自分たちだけで」というのが、とても意味があると思います。
- ・先生に頼らずに目的地に行ったり、いろいろ決めたりすることが充実感があった。
- ・見知らぬ土地で自分たちだけで行動する力がより身についたと思う（インタビューや移動）
- ・自分たちだけで行動するということが、協力・自律・活用、全てが充実していた。

などと、インタビュー及び自分たちだけでの行動が充実していたと書く生徒がほとんどであった。事前学習と合わせて、自律的活動力とコミュニケーション力に手ごたえを感じている証しといえるのではないだろうか。

6 校外学習報告会について		
(1)クラス内プレゼンテーションでどのような意義を感じたか(2つ)		回答数
①自分たちの学びを確認すること		2
②自分たちの学びを要領よくまとめる力をつけること		5
③自分たちの学びを他者に伝える力をつけること		6
④他者の発表を聞くことで、参考になる情報やスキルを身につけること		2
⑤質疑したり議論したりすることを通して、相互に学びを深めること		4
⑥相互のアドバイスや講評を通して、探究力やプレゼン力を向上させられること		2
(2)全校の報告会でどのような意義を感じたか(2つ)		回答数
①自分たちの学びを確認すること		1
②自分たちの学びを要領よくまとめる力をつけること		4
③自分たちの学びを他者に伝える力をつけること		5
④他者の発表を聞くことで、参考になる情報やスキルを身につけること		4
⑤質疑したり議論したりすることを通して、相互に学びを深めること		5
⑥相互のアドバイスや講評を通して、探究力やプレゼン力を向上させられること		2

報告会に向けてのクラス内プレゼンでは、「学びをまとめる力をつける」「他者に伝える力をつける」に意義を感じるのと回答が多い。全校での報告会では、「他者に伝える力をつける」と「質疑や議論により相互に学びを深める」に意義を見る回答が多くなった。前述のように、質疑の時間をとったり相互評価シートを作ったりするなどの工夫が奏功したものだろう。

7 プロジェクトキャンプの事前・実施・事後の取組みを通して、どのような力が伸びたと思うか。				
	①大いに伸びた	②まあ伸びた	③あまり伸びなかった	④全く伸びなかった
a協働する力	5	6	1	
b話し合う力	4	6	2	
c段取り力	7	4	1	
d計画実行力	5	6	1	
e計画を見直したり修正したりする力	5	5	2	
f問題を発見する力	3	8	1	
g問題解決の道筋を考える力	4	6	2	
h様々なツールを活用する力	4	7	1	
i既習事項や教科学習と関連させる力	2	6	4	
j様々な情報を論理的に構成する力	2	8	2	
k伝える力	3	7	2	

事前から事後を通してどのような力が伸びたかについては、いずれの項目も高評価だった。特に「協働」「段取り力」「計画実行力」「計画修正力」が高く、自分自身で企画させるプロジェクト・キャンプの目的が達成されたと言える。また、問題解決に関連した活用力の評価も高く、プロジェクト・キャンプは所期の目的をほぼ達成したといえる。しかし、「既習事項や教科学習との関連」の評価がやや低いところは、後述の海外研修アンケート結果にも関わり、今後の課題である。

## 2 生徒の作文から

ここでは紙幅の関係上、一人の生徒の作文を紹介したい。

私は10月31日から11月2日までクラスのみさんと東京に行ってきました。東京に着くと、仙台よりも人が沢山いて驚きました。人が沢山いるところで研修できるのかと不安に思いました。

私のグループはキリスト教大学・そこにしかないもの、またどのような教育をしているのか、というテーマでした。1日目は、上智大学。2日目は恵泉女子大学。3日目は明治学院大学に行ってきました。大学のチャペルを見学させてもらったり、学食で昼食を食べたり、サークルのお話を直接学生さんから聞いたりとたくさん学ぶことができました。

また、明治学院大学については学園祭をやっていて初めて大学の学園祭に参加しました。高校などとは違って、自分たちで全てを自由にやっていて、いいなあと思いました。私たちがとても良い学習ができたのは、案内してくれた職員の方が丁寧に教えてくれたからだと思います。

(中略)

私はこの三日間で、どんなことにもチャレンジすること、仲間との協力を学びました。このプロジェクトは最初から最後まで自分たちでやってきたもので、何事にもチャレンジすることが大切なんだなど実感しました。また、道が分からなくなった時、どう質問していいか分からなくなった時に仲間が助けてくれたから良い研修ができました。今回のプロジェクトで学んだ二つの事を忘れずに、これからのまとめをしっかりと、最後まで自分たちでがんばりたいです。

## 2節 海外研修の分析

### 1 アンケート結果による分析

海外研修も参加者は11名であるが、アンケートを行った時点で体調を崩した生徒がいたため、回答者数は9名にとどまった。

事前学習について。以下の学習は「協働」「自律」「活用*」などの力を伸ばすためどれぐらい寄与したか * 問題発見、予想・仮説、探究、問題解決のために様々なツールを活用することとする。				
(1)テーマ設定(プロジェクトのテーマ設定、自分/社会への意義、ゴールの設定)				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	2	6	1	
自律	2	6	1	
活用	1	8		
(2)事前調査(プロジェクトのレイアウト・計画、インターネットや文献での調査、インタビュー準備)				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	1	5	3	
自律	3	6		
活用	2	5	2	

事前学習ではほとんどの活動が協働・自律・活用に寄与したと評価されている。特に事前調査における「自律」は高く出ている。反対に事前調査における「協働」がやや低いのは、個人プロジェクトであった結果といえるだろう。

3 実施について。以下の活動は、「協働」「自律」「活用」などの力を伸ばすためどれぐらい寄与したか				
(1)useful Englishの講義(授業)				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	6	2		
自律	4	5		
活用	7	1		
(2)American cultureの講義(授業)				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	5	2	2	
自律	4	4	1	
活用	6	3		
(3)訪問・見学				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	5	4		
自律	4	3	1	1
活用	3	5	1	
(4)インタビュー				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	2	6		1
自律	4	4	1	
活用	4	4	1	
(5)クラスミーティング				
	①大いに寄与	②まあ寄与	③あまり寄与せず	④全く寄与せず
協働	6	2	1	
自律	4	5		
活用	4	4	1	

海外研修の実施も概ね高評価である。特にアメリカ人講師による講義の評価が高い。インタビューにおける「協働」がやや低いのが、これもほとんど個人プロジェクトであったためと考えられる。

クラス・ミーティングにおける「協働」のスコアが高いのは、海外での長期間にわたる活動のため、

集団の力が大きな力を果たしたと考えられる。そのことは、「クラスメイト達との共同生活で集団の大切さを知った」という自由記述からもうかがわれる。

自由記述ではまた、英語コミュニケーションに関するもの（5名）と、プロジェクトの推進に関わる項目（5名）が多いが、次いで英語に限らず他者とのコミュニケーションの重要性への気づきが多い（3名）。

海外研修の事前・実施・事後の取組みを通して、どのような力が伸びたと思うか。				
	①大いに伸びた	②まあ伸びた	③あまり伸びなかった	④全く伸びなかった
a協働する力	5	4		
b話し合う力	5	3	1	
cコミュニケーション能力	3	6		
d英語運用能力	2	5	2	
e段取り力		2	7	
f計画実行力	1	2	6	
g計画を見直したり修正したりする力	3	2	4	
h問題を発見する力		5	4	
i問題解決の道筋を考える力	2	4	3	
j様々なツールを活用する力	2	5	2	
k既習事項や教科学習と関連させる力	2	4	3	
l様々な情報を論理的に構成する力	2	5	2	
m伝える力	3	6		
n忍耐力	3	5	1	

事前から事後を通してどのような力が伸びたかについては、「協働」「話し合う力」が特に高い。これは、海外だから特に意識されたものと思われる。反対に、「段取り力」「計画実行力」「計画修正力」が低く出ている。外国では国内のように自由度を高くできないため、中学でのプロジェクト・キャンプの経験と比較すると低く出るのだろう。

なお、「既習事項や教科学習との関連」がやや低いところは、前述のプロジェクト・キャンプと同様にわれわれの今後の課題である。

## 2 生徒の作文から

ここでは二人の生徒の作文から抜粋して紹介したい。

私はモンタナ研修に行っても良かったと感じています。自分自身を見つめ直す機会であり、16日間という短い間でしたが、成長できたのではないかと思います。

(中略)

ミズーラでの生活は午前中には二人の先生の授業がありました。アメリカの文化などを学ぶ授業でした。最初は緊張もあってか、先生の話していることを理解したり、反応することが大変でした。しかし、反応しないと先生に私がどう思っているのか伝わらないし、自分も先生に伝えたいことが理解

してもらえないんだと実感させられました。授業を受けているうちにだんだんと慣れてきて、私にとって楽しい授業となっていきました。(中略) アメリカ文化の授業ではアメリカの食、旅行、音楽、歴史、スポーツなど様々な分野を学びました。私は探究で農業と食文化について調べているので、それについての授業はとてもためになりました。

授業でスピーチを毎回作る宿題が出ましたが、現地スタッフの先生が発音の指導をしてくれて、とても充実している環境でした。プールや山登りなど体を動かすことも多くて、全然辛さを感じませんでした。アメリカに行く前の自分が嘘みたいでした。こんなに楽しい研修を与えてくれた両親、先生方、現地スタッフの方々への感謝でいっぱいです。本当にこの研修に参加できて良かったです。

(前略) モンタナでの生活は1日1日が長かったけれど充実しているがために、振り返ってみればあっという間でした。毎日の授業では、アラン先生とベス先生から多くのことを学びました。アラン先生から教えていただいたコミュニケーションは、アメリカにいた時も大いに使うことができたし、日本に帰って来てからも使う機会があると思うので、とても良い学びの時だったと思います。ベス先生の授業では、アメリカの文化や探究のことを交えたものであったので、とても勉強になったと同時に探究を進めることができました。2人の先生の授業では毎回宿題が出て英文を作るのに苦戦したことは何度もありました。しかし、その宿題や授業で発言する機会があったからこそ英語で伝えるという大切さやコミュニケーションを取る時の表情の大切さを学ぶことができました。

探究については、モンタナで7人の方にインタビューすることができました。その中で実際にアメリカで活動しているピアニストの方がいました。その方から聞いたお話は、探究に関することだけではなく、どうやったらピアノがうまく弾けるか、曲のイメージはどうやってつくったらよいのかなど様々なことを聞いて、私の演奏にもアドバイスをいただきました。この時は、探究についての学びも、個人的な学びもできて、とても良い思い出となっています。

モンタナでの生活は、ドイツで経験したものと全く違うものでしたが、とても楽しかったし、良い経験ばかりでした。ドイツの時は、単語を並べて話すのが精一杯で文法なんて全然意識していなかったからこそ、モンタナに行って習った文法を意識して使ってみたり、発音やアクセントに気をつけて単語を話したりすることができました。(後略)